

# 西部開拓時代におけるカウボーイの役割と影響

13L056 山田 雄相

## はじめに

アメリカ史における西部開拓時代とは一般に、19世紀アメリカで1845年のテキサス併合などによるフロンティアの拡大に伴い、人々が新天地を求め西部に移住を行った時代から、1890年にフロンティアの消滅が国勢調査により発表されるまでの期間を指す。

この時代は多くの困難や危険を伴った開拓により、アメリカ人のフロンティアスピリットを形成した。そのため、後の1930年から60年の間に、西部開拓時代を舞台とした西部劇と呼ばれる作品が多く作られた。その中で登場人物の多くはガンマンや保安官などこの時代を象徴とした人々であり、中でもカウボーイは馬に跨り、荒野の町で悪さを行う相手やインディアンと戦う正義の男というイメージが強く形成されている。そこで実際に彼らはどのような仕事を行っていた人々なのか疑問に思い、卒業論文の題材に取り上げた。

私が参考にした文献においてカウボーイが活躍した時代は主に一つで、黄金期と呼ばれる1860年代から80年代に、放牧業や北部へ牛の輸送を行ったことにより活躍したとされている。しかし、私はカウボーイが活躍した時代は二つあり、一つ目は1848年にカリフォルニアから始まり以後各地で起こるゴールドラッシュの時代に、金鉱地帯で起こった食糧不足問題の解決や、それに伴う州の発展に関わったことであると考え。二つ目は参考にした論文と同じ時代であり、カウボーイの黄金期と呼ばれる南北戦争後の1860年代から80年代に、北部と西部を食肉の流通により繋ぎ、アメリカの発展に携わったことだと考える。

そこでこの二つのカウボーイが活躍した時代で、カウボーイが何故この時代の象徴とされ、どのような役割を担い、どのような影響をアメリカに及ぼしたのか、カウボーイの形成から発展までを研究し、また今日映画の世界でしか見る事のなくなったカウボーイが衰退した理由までを、順に述べていく。

## 第一章 ゴールドラッシュ期におけるカウボーイの役割

アメリカにおけるゴールドラッシュは、1848年1月24日カリフォルニアのサクラメント近くのコロマで、ジェームズ・マーシャルが金を発見したことから始まった。金の発見は西部開拓時代の象徴ともされ、この時代にカウボーイは牛の輸送を行い、西部の発展に携わっていた。第一章ではゴールドラッシュに伴うカリフォルニアの州への昇格や、それにより南北の対立の激化などが起こった背景を、西部開拓時代の始まりから順に述べていく。

## 1.1 西部開拓時代の始まり

### a. 西部開拓時代の時代背景

カウボーイは主に、温暖な気候と牛の食糧となる水と草が豊富なテキサスで放牛業を行っていた人々である。このテキサスは元々メキシコ領であり、1845年のテキサスの併合、1846年のオレゴンの獲得、1848年のカリフォルニア、ニューメキシコの獲得などの相次ぐ領土の拡大の中でアメリカの一部になった州である。これによりアメリカの領土は独立当時40万平方マイルにすぎなかったが、19世紀中盤までに300万平方マイルに達した。

領土の拡大に伴い人々は新たな生活を求め西部に移動し、フロンティアの拡大が行われた。フロンティアとは国勢調査の定義により、一平方マイルに人口が2名から6名になった地域のことである。<sup>1</sup> そしてこのフロンティアの拡大を、人口の増加により格段に促進したのが1848年のカリフォルニアゴールドラッシュである。

### b. ゴールドラッシュによる影響

先に述べた1848年1月のカリフォルニアでの金の発見は、通信手段が未発達だったためワシントンに伝わるのに半年以上かかり、同年の秋に大統領から発表された。<sup>2</sup> ニューヨークのある新聞では、人々が考えられないような大金を手に入れる様子を盛んに報じた。当時アメリカ東部では一日2ドルの賃金を得ることが出来れば良い方だったため、こうした新聞報道に踊らされた人々が次々とカリフォルニアを訪れた。<sup>3</sup> また金の発見は黄金熱と呼ばれ、アメリカ全土からだけでなく世界中から人々が集まった。

西部入りのルートはいくつかあり、海路を取る場合はマラリアや厳しい気候、インディアンとの戦いを経ておよそ2万5千人、陸路では8万人が訪れた。特に1849年の冬から翌年の春にかけて、約250隻もの船が東部の港からカリフォルニアに向けて出港し、カリフォルニア行を知らせるポスターはアメリカ東部のいたる所に張りだされ、さらにヨーロッパやオーストラリア、中国などの主な港町でも見かけることが出来たほどであった。<sup>4</sup>

### c. ゴールドラッシュに伴うカリフォルニアの状況

これらの影響によりカリフォルニアの人口は当初8千人だったが、10万人以上の人々が押し寄せたため、食料品が不足し需要が格段に高まった。これにより好景気に沸き返っているカリフォルニアの鉱山町の物価は大いに高騰した。卵1個が75セントから1ドル、小さなジャガイモ1個が25セント、うずらや家鴨が2ドルから5ドルと東部の町の普通の物価の数十倍もした。<sup>5</sup> 特に食肉に対する需要は最も高く、地元の牧場に生息する牛だけでは需要を満たすことが不可能なほどであった。

## 1.2 カウボーイの誕生

### a. ゴールドラッシュによるカウボーイの誕生

1850年の早春に、ミズーリからカリフォルニアへ牛を追って行く旅を始めた最初の男は、ウォルター・クローだったと言われている。<sup>6</sup> 彼はトレールと呼ばれる移住者達が西部へ向かった道を使用した。トレールの中にはいくつか種類があり、ミズーリから太平洋岸のオレゴン地方に通じるオレゴントレールは西部への主なトレールとして1840年頃から最も使用されるようになった。そのオレゴントレールの途中のアイダホの砦を分岐点として、カリフォルニア方面へ向かう移住者たちによってカリフォルニアトレールが拓かれた。<sup>7</sup> 他にもモルモン教徒が迫害から逃れるために使用したモルモントレールなどがある。

彼は1850年5月の初めに721頭の食肉用の牛を連れ、カリフォルニアトレールを五か月かけ移動し、9月30日にカリフォルニアに到着し牛を売却した。それから1851年の春にはさらに多くの牛がミズーリやミシシッピ川流域の地方からカリフォルニアに向かい、1852年には9万頭の牛がカリフォルニアに向かってネブラスカのカーニー砦を通り過ぎたという。1853年8月15日までの砦の記録によると、ここを通過した牛の数は10万5,792頭でありカリフォルニアに送られたと考えられる。<sup>8</sup>

#### **b. テキサスで最初のカウボーイの登場**

一方、後に述べる黄金時代で活躍するテキサスのカウボーイが誕生したのは、同じくカリフォルニアゴールドラッシュの時代であった。当時テキサスでは無数の牛が生息し、せいぜい一頭1、2ドルでしかなく、売るべき市場もなかったため牧畜業者が困るほどであった。そこでテキサスの牧畜業者はカリフォルニアの食肉需要に強い期待を抱き、カリフォルニアまでの約2,400キロという長旅であったが、牛を運ぶことを考えたのである。この旅は成功するか分からない賭けであったが、原価の牛がタダ同然だったため、旅の途中で半数を失っても充分利益を得ることが出来ると考えられたのである。<sup>9</sup>

#### **c. ロングドライブの成功とその影響**

テキサスからカリフォルニアまでのロングドライブ（牛追いの旅）は当時五か月から六か月かかった。しかし、多くのテキサスの牧畜業者は多大な利益を求めてロングドライブを行った。中でもテキサスのワシントン郡出身のT・J・ツリミアは、500頭の牛を太平洋岸まで運び、物価の高騰により一頭につき100ドルで売ったらしく、約100倍の利益を得ることができた。<sup>10</sup> このテキサスの牧畜業者がロングドライブにより大きな利益を得たことは、黄金熱にかこつけ牛熱と呼ばれ、牛の牧畜に目をつけ牧畜業を行うためにテキサスに移住する人々がいたほどであった。

### **1.3 ゴールドラッシュによるアメリカへの影響**

#### **a. カリフォルニアの州昇格**

テキサスでタダ同然の牛が一頭100ドルで売れたほど物価の高騰が起り、カリフォルニアの人口は増加していた。実際に多くの金が出たこともあり、1848年には1千万ドル、49年は4千万ドル、50年は5千万ドル、53年には6千5百万ドルの産出量を誇った。<sup>11</sup> その結果カリ

フォルニアは発展し、成人男子5千人以上が住むことから成立する準州を経ず、老若男女合わせて人口が6万人に達した時に得られる州になる資格を得たのであった。そして1850年9月9日に連邦議会が承認したため、一気に州へと昇格したのである。

## b. 州昇格におけるカウボーイの役割

カウボーイはカリフォルニアの州昇格の際、自分たちが利益を得るためにロングドライブを行った結果、人々の定住基盤を支える食という分野において、貢献することとなった。

これにより当時未開の地であった西部に人々の移住が促され、フロンティアが次第に西へ移動することにより、次々と西部に新しい州が増えていった。このことは同時に男子の普通選挙権が拡大し、それだけアメリカの民主主義が前進したことを意味した。独立当時はまだ民主的な国家だとは言えなかったが、徐々に民主主義が延伸した。これは労働力である男性の増加を伴う西部の発展によるものだと考えられる。<sup>12</sup> 他にも東部の大陸横断鉄道建設の気運も高まり、ゴールドラッシュで得た金は公共事業にも注ぎ込まれ、大企業による雇用の増大はアメリカ経済の基盤を築くこととなったのである。

## c. 南北の対立

しかし州の昇格は良い面だけでなく、建国当時から問題となっていた南北の奴隷問題や政治問題に影響を与えたのである。カリフォルニアが州に昇格する1850年までは、合衆国において南部の奴隷州と北部の自由州はそれぞれ15州ずつであり、政治的均衡が維持されてきた。特に各州から2名が選出される上院議員数のバランスは重要であった。しかしカリフォルニアが自由州として連邦に編入することにより上下院数の変動が起こり、南部が不利な状況に陥ったのである。

北部の人口増加と自由州の増大は、自由州と奴隷州の人口の差を拡大した。増大する移民は主として自由州に流入し、奴隷州の人口は増加しなかった。人口の差を反映して連邦議会の下院では自由州の議員が多数を占め、連邦政治における勢力の均衡はあきらかに北部の自由州に傾いていた。これにより連邦政治において南部はますます少数勢力となり、産業基盤である奴隷制度の維持が危うくなり、南部の合衆国からの脱退を駆り立てたのであった。<sup>13</sup>

## 一章まとめ

この章ではカウボーイが、カリフォルニアでのゴールドラッシュによる人口増加に伴う食糧不足を解決するため誕生したことを述べた。食肉の需要拡大による価格高騰と、当時テキサスに夕ダ同然でいた牛の供給が見事に一致したのであった。大量の牛を率いての約2,400キロという長旅であったが、初めてのロングドライブは成功し、その結果金の産出は促され、大陸横断鉄道の建設の気運も高まり、アメリカ経済は発展の兆しを見せた。しかし一方で、カリフォルニアの州昇格による自由州の増加は、上下院数の変動を起こし、南北の政治的均衡を崩すこととなった。

## 第二章 カウボーイの黄金期

第一章ではカウボーイが、1848年のカリフォルニアのゴールドラッシュにより誕生し、カリフォルニアの州の昇格に携わり、その結果大陸横断鉄道の建設や南北の対立などを引き起こしたことについて述べた。

第二章では南北戦争中や、南北戦争後のカウボーイの黄金期と呼ばれた最も活躍した時代に、彼らがアメリカにおいてどのような役割を担っていたのか時代順に述べていく。

### 2.1 1850年代のカウボーイ

#### a. 黄金期への兆し

西部の新たな土地の発展は、北部における産業の発展に対応して急速に変貌していった。北部における急激な工業的発展は、膨大な労働人口の増加をもたらし、それに伴い西部の小麦や牛肉といった食糧への需要を生み出したため、カウボーイはロングドライブにより北部に牛の輸送を行った。

この北部への牛の輸送と、黄金期に東部の鉄道を利用したロングドライブの基盤を作ったのがトマス・キャンディ・ボンディングである。彼は1854年に、当時鉄道はまだ家畜、特に牛の大量輸送をしたことがなかったにも関わらず、テキサスで買い付けた牛を北部のニューヨークまで運ぶ計画を立て実行したのである。ボンディングはニューヨークへの途中、何回も牛を貨車から降ろし、駅周辺の草を食べさせたり水を飲ませたりしながら、遂に同年7月2日にニューヨークに着き、100番街の市場へ牛を運び入れた。<sup>14</sup> 彼のこの長く険しいロングドライブの旅は、ニューヨークのデイリー・トリビューン紙に掲載され、130頭のテキサス牛を3,200キロも輸送することが出来、大きな利益を得られることが立証された。これによりテキサスの牧牛業界は大いに奮い立ち、後の黄金期に行われる鉄道を利用したロングドライブの基盤が作られたのである。

#### b. コロラドゴールドラッシュ

カリフォルニアに続き、1858年の春にコロラドでもゴールドラッシュが起こり、デンバーを中心としてその南方のバイクス・ピーク地方には、その年の秋までに数百人の金鉱掘りの人々が集まった。肝心の金は中々発掘されなかったが、それにも関わらずコロラドへ向かう人々で賑わい、59年の6月にはバイクス・ピーク地方には約10万の人たちが血眼になって金を探しに訪れた。<sup>15</sup> その最大の理由は当時の経済状況にあった。1857年、アメリカは深刻な経済恐慌に見舞われていたため、中西部では失業者や土地を失った農民が、比較的身近なコロラドで金が発見されたことにより集まったのである。<sup>16</sup>

#### c. テキサス熱による影響

このゴールドラッシュによりテキサスの放牛業者は、カリフォルニアでのゴールドラッシュを思い出し、今回も牛のロングドライブにより莫大な利益を得られるのではないかと考えた。<sup>17</sup> し

かし、1850年頃から主にテキサスの牛の間で、テキサス熱と呼ばれる原因不明の感染症が発生しており、ロングドライブ中のトレールの途中にいる農民や家畜業者が自分たちに感染することを恐れ、牛の通行を禁止する法律を作ったのである。<sup>18</sup> このため1850年代にロングドライブを行うことは厳しくなったかのように思われたが、牛の通行の禁止は実際には特に行われず、ロングドライブは続けられた。しかしそれも続きはせず、1861年に南北戦争が勃発したため、カウボーイはロングドライブを行うことが出来なくなったのである。

## 2.2 南北戦争中のカウボーイの役割

### a. 南北戦争の始まり

各地で起こったゴールドラッシュにより西部の移住者は増加し、西部を商業的農業地域へと変貌させた。それと同時に北部は工業的発展で人口増加による食糧の需要が増えたため、北部と西部は相互に食糧と工場製品の売買市場としての関係を強め、次第に両地域は南部市場への依存度を弱めていったのである。<sup>19</sup> そして、州の増加による政治的問題の激化により、北部と南部の対立は進み、1861年4月13日に南北戦争が勃発した。

### b. 南軍の食糧支援

南北戦争によりテキサスの放牛業者は、北部あるいは東部の市場を一举に失い、カウボーイは南軍の兵士として前線に向かわなければならなかった。<sup>20</sup> しかし、南北戦争が始まって間もなく、南部の諸州からなる南部連合政府の議会において、初代テキサス代表の議員のジョン・A・ウィルコックスは、テキサスの大牧場主を連合国政府（南部）御用達の放牛業者とし、出来るだけ多くの食肉を軍の兵站到納入するよう命じた。また牛1頭につき40ドルを支払うという条件を示し、その上政府御用達の放牛業者には軍務を免除するなど特典を与えた。<sup>21</sup>

これにより南部の牧牛業者は南北戦争が終結するまでの間、北部での仕事を行うことは出来なかったが、南部政府との牛の取引を行えたため、南北戦争中も生活苦になることはなかった。

## 2.3 カウボーイの黄金期の始まり

### a. 戦争の終結と北部への出荷

南北戦争が終わった1865年、テキサスの南西部には無数といってよいほど所有者の分からない野生の牛が繁殖していた。そこで誰が所有者か分かるよう牛に焼き印をつけるラウンドアップと呼ばれる法律が定められた。やがて牧畜を行っている州では、各々の放牛業者組合が焼き印の台帳を所有するようになり、その中に組合員の全ての焼き印を登録し、正しく実行されているか監視されるようになった。<sup>22</sup>

ラウンドアップが本格化された65年から70年の間には、多くの食糧や日用品を積み、調理を行うことの出来るチャックワゴンが開発され、ロングドライブに必須の存在となった。また当時東部の市場では南北戦争により北部の牛をほとんど消費し、極端な肉不足に陥っていた。そのた

めカウボーイは、1869年に完成される大陸横断鉄道の一部が出来上がっていたため、鉄道を利用して牛を運ぶことを考えたのである。当時テキサスには牛が約311万頭おり3～4ドルほどの価格であったが、東部では50ドルの価値があったとされている。<sup>23</sup>

#### b. 鉄道を利用したロングドライブの始まり

東部に牛を運ぶ場合は鉄道が延びてきていたミズーリまで牛を運び、その後カウボーイも一緒に鉄道で東部の市場まで付いて行かなければならなかった。そのためイリノイのジョセフ・マッコイは、カンザスのどこかの駅周辺に牛の町を作り、そこで牛の売買をしようと考えたのである。これが成功すればカウボーイの輸送の仕事はこのカンザスの駅までで終わり、後の東部までの輸送や売買を仲買人に任せればよかったのである。<sup>24</sup>

そこでマッコイはカンザスパシフィック鉄道の沿線のアビリーンを、鉄道が通じ、かつ十分な水と牧草に恵まれていたため、牛の町として選んだのである。そしてアビリーンに、約千頭の牛と、2時間以内に40車両に積み込みのできる家畜置場を作り、100名ほどが宿泊でき、その3倍の人数が食事をできる立派なホテルを完成させた。<sup>25</sup> こうして1867年9月5日、テキサス牛を積んだ20両の家畜列車がアビリーンから東に向かって出発し、この年の冬までに3万5千頭の牛がアビリーンに着き、その中の2万頭が東部へ鉄道で送られた。その後も1868年には約7万頭の牛がテキサスからアビリーンに運ばれ、翌年にはさらに多くが向かい、その数は35万頭以上に達し、71年にはカンザス地方に70万頭以上が運ばれた。<sup>26</sup>

これにより東部からの鉄道が延伸しているカンザスなどの駅のある牛の町に、牛をロングドライブで連れて行くだけでカウボーイの仕事は終了したため、ゴールドラッシュ時のようにわざわざ遠くの消費地までロングドライブを行う必要が無くなったのである。

## 2.4 黄金期のロングドライブ

#### a. 牛の町の成功

マッコイによりアビリーンは牛の町として発展し、鉄道を利用したロングドライブは西部の一大産業となった。その後も1871年になると農民の開拓地が広がり、鉄道もさらに西方へ延びた。そこでロングドライブの終着点はアビリーンから60マイル西方のエルスウォースに変更され、72年から75年までは、エルスウォースとニュートンに約150万頭の牛が移された。1875年になると鉄道はさらに西へ延びたので、牛の中心地はダッジシティに代わり、75年から4年間はダッジシティに約100万頭の牛が到着した。<sup>27</sup> これによりアビリーンが牛の町として発展した1865年から1880年はカウボーイの黄金期と呼ばれ、就業人口は3万5千人から4万人にもなったと言われている。

#### b. ロングドライブの方法

ロングドライブの方法は、まず放牛業者が毎年初めにテキサス各地の牧場で牛を買い付け、多くの馬を同時に購入することから始まった。2,300頭から2,500頭の牛を追うため平均40頭の馬

が必要とされた。<sup>28</sup> その後12人から15人程のカウボーイを月給25ドルから30ドルで雇い、平均2千頭の牛を連れテキサスから出荷地のある駅まで約2,400キロのロングドライブに出発した。カウボーイの給料は民間で最低の金額であったが、ロングドライブの隊列の中で先頭を務める隊長は100ドルほどで雇われた。また逆に隊列の後ろになるほど経験の少ないカウボーイになり、給料も安かった。

### c. ロングドライブ中の問題

ロングドライブの最中は一日平均20キロ進むというものが典型的な例であり、その際多くの問題が生じた。西部のまだ開拓されていない土地柄では、昼夜で寒暖差が多く、強風が吹き、底なし沼や流砂などにより行く手を塞がれた。落雷や竜巻といった自然の猛威は牛が暴走を始めるきっかけにもなった。一度暴走が起こると他の牛にも伝染するため集団暴走が起こり、未熟練のカウボーイの間では牛の暴走がよく起き、逃げてしまった牛に焼き印を押しておかなければ所有者の権利も不明になってしまった。<sup>29</sup>

他にも旅を行う最中は自然の驚異だけでなく人間に妨害されることもあった。牛は高く売れ食糧にもなるため、牛泥棒や武装集団に狙われることも多かった。またトレールを使用する際にインディアンの保留地を通るため、牛一頭につき10セントを要求されるなどの問題も生じた。その他にもコヨーテやピューマ、グリズリーなどの動物や、ガラガラヘビやサソリ、タランチュラなどの危険生物も西部には多かったため、気の休まる時間は無に等しかった。<sup>30</sup>

### d. カウボーイの生活

ロングドライブ中の食事や夜間の牛の監視は交代制で行われ、仕事自体も辛く病気になる事もあり、カウボーイの中には途中で逃げ出す者も多くいた。そのため西部劇でよく見られるインディアンとの戦いなどは行う暇さえなかった。また旅の装備の中には銃があったが、高価でありカウボーイの仕事自体が安月給であったため弾丸の無駄遣いは出来なかった。そのため銃は自衛のために携帯し、主な用途は先に述べた牛泥棒を追い払うか、助けを求めるSOS信号として使われた。<sup>31</sup>

そして、ロングドライブ中は風呂が禁止され、着替えや散髪もなく、賭けと飲酒も禁止されていたので、唯一の娯楽は旅に同行するチャックワゴンのコックにより作られる食事だけであった。他にも単調で退屈な長旅であるためトランプや、自分達の辛い仕事のことを歌ったカウボーイソングなどを楽しんだとされている。<sup>32</sup> そのためカウボーイは旅の終わりである牛の町に着くと、今までの旅の疲れを癒すため酒場に入り浸ったのである。

## 二章まとめ

この章ではカリフォルニアのゴールドラッシュ以降のカウボーイ業について述べ、各地で起こったゴールドラッシュでのロングドライブにより、順調に黄金期への基盤を作っていたことが分かった。一時ロングドライブが中断された南北戦争中も、南軍への食糧支援により仕事に困る

ことはなく、西部での重要な仕事であったと考えられる。

そして、南北戦争後の65年から80年にかけての黄金期には、マッコイの考案により、わざわざ現地まで牛を輸送せずとも、東部に繋がる駅のある町までのロングドライブで済むよう牛の町が建設されたことにより、鉄道の発展と共にカウボーイのロングドライブは全盛期に突入した。北部での労働人口の増加による食糧不足により、ロングドライブの必要性は格段に増加し、放牛業者は多額の利益を得ることとなった。またこれにより北部と西部を繋ぎ、より一層関係を強めることに成功したと考えられる。

## 第三章 カウボーイの衰退

第二章に述べたように、1865年から80年は黄金期として多くの牛を東部の市場まで運び、放牛業者は多大な利益を得ることができた。しかし、1880年代に入ってから時代の流れはカウボーイの存在を必要としない方向に進んでいった。それには時代背景やいくつかの要因があり、これほど発展したカウボーイ業が衰退してしまった理由を、第三章では5つの要因に分けて順に述べていく。

### 3.1 大陸横断鉄道開通に伴う影響

#### a. 鉄道網の発達によるロングドライブの廃止

カウボーイの需要が減少した最も大きな理由は、鉄道がテキサス州内まで延びてきたことである。テキサスでは南北戦争前後、ほとんど鉄道は建設されなかったが、1876年の鉄道建設に対する財政援助法により、一挙に建設ブームが高まった。<sup>33</sup> 経済的に協力していた北部と西部は、互いに商品や農作物などを結ぶ輸送方法を求めていたため、鉄道網の発達は非常に望まれていたと考えられる。鉄道網の発達は距離的なものだけでなく、経済的にも北部と西部を一つのアメリカという国として繋ぎ、より関係を深めることを可能とした。また北部と西部だけでなく南部も鉄道により繋ぎ、アメリカが一つの国としてまとまる事が望まれた。

1876年にはパシフィック鉄道が開通し、その後も北のセント・ルイスとの間にミズーリ・カンザス・アンド・テキサス鉄道が、さらにデンバーとの間にはフォート・ワース・アンド・デンバー鉄道がそれぞれ開通し、1890年までにテキサスの鉄道網は他のどの州よりも発達を遂げた。<sup>34</sup> これによりテキサス内の牧場から鉄道を利用して産地直送が出来るようになったため、長い月日と経費のかかるロングドライブの必要性が無くなったのである。

### 3.2 有刺鉄線の発明と影響

#### a. 有刺鉄線の使用方法

この大陸横断鉄道の普及に伴い、放牧している牛が鉄道に衝突する事故が多発し、鉄道を守る費用が一日100ドルほどかかっていた。<sup>35</sup> そして1873年にイリノイのジョセフ・ファウエル・グ

リドンという農民が有刺鉄線を発明し特許権を得ると、先に述べた鉄道問題の解決の他にも、価格が安く大量生産が可能であり、強風に耐え冬の期間に雪を積もらせることもないなど、多くの利点があったため西部一帯に瞬く間に広がった。<sup>36</sup> また有刺鉄線は、開拓農民の土地への牛の侵入を防ぐことも可能にした。

#### b. 開拓農民との対立

西部の農業面では農業機械の開発や発展により、今までは農業に適さないとされていた高原地帯にまで農民が進出してくるようになった。そのため農民の発言力が強くなったミズーリやカンザスでは、二章で述べたように牛が運んでくるテキサス熱を防ぐため、ロングドライブを法律でやめさせようと働きかけ、コロラドやワイオミングなどでは農民と牧場主の対立が激化した。<sup>37</sup>

そのため自営農家は耕地の周囲を有刺鉄線で囲み、牛の侵入を防いだのであった。しかしそれにより放牛業者は牛が傷ついたり放牧地が狭まったと憤慨し、柵を切ったり破ったりするフェンスカッター（柵破り）が各地で流行した。この争いによりフェンスカッターとカウボーイの間で、テキサスでは6人が殺される殺人事件にまで発展した。<sup>38</sup>

### 3.3 ホームステッド法による影響

#### a. ホームステッド法に伴う放牧地の減少

開拓農民の進出により放牧地が狭くなったと思われたが、他にも公有地の減少が広い土地を要するカウボーイを圧迫していた。1862年にホームステッド法（自営農地法）が制定され、自営農民は西部のまだ開拓されていない160エーカーの土地に5年間定着し、また耕作や規定された改良を行い少額の登記料を支払うことにより、無償でその土地を得ることができた。半年後には所有権が得られるようになり、南北戦争に従軍した兵士には従軍した期間がその5年間から差し引かれるという特典も与えられた。<sup>39</sup> したがって東部で満足に生活を送れなかった人々や移民が新しい土地に成功を求め集まり、その結果人口が増加し自然と開拓が進められていった。

今まで国有地を利用しかつ政府の干渉を受けず大きな財を得ていた放牧業者であったが、ホームステッド法に伴う西部の発展や、1885年にクリーヴランド大統領が勝手にオクラホマの土地を借りている牧畜業者に対し、ただちにインディアンに返還させる行政命令を出した措置などが影響し、広い放牧地を使用できなくなってしまう。<sup>40</sup>

またその後も開拓は進み、1890年に合衆国政府国勢調査局からフロンティア消滅が宣言されると、西部の土地は必ず誰かの所有になり、勝手に放牧を行うなど土地の所有権を主張できなくなったのである。

### 3.4 北部の牧牛業の発展による影響

#### a. 北部の牧牛業の始まり

西部から鉄道が延び、北部に簡単に牛を運べる環境になったにも関わらず西部の放牧業が衰退

した理由には、消費地である北部での牛の放牧業が始まったことも影響している。

北部での放牧の始まりは1840年から50年に遡り、リチャード・グラントという毛皮商人が、北部のモンタナでも牛が山間部の谷で厳しい冬を生き残れるということを証明したことから始まった。<sup>41</sup> その結果、北部での放牧業は1863年までに重要な産業に成長し、その後7年間でモンタナで飼育された牛は10万頭以上にのぼり、小規模ながら牛の牧場がオレゴントレールに沿って数か所に生まれた。

### b. 北部の牧牛業の進展

また同時期に新たにワイオミングの土地が、乾燥した気候そのものが牛の放牧地として適していると考えられ始めていた。この土地はインディアンとの条約によりスー族に属した土地で放牧はできなかったのだが、条約の改正によりワイオミングの北東部やモンタナの中央部や東部が開放されたのである。それによりただちに多くの牧牛業者がこの土地に移住し、牛の大群がやってきた。<sup>42</sup> 多くのテキサス人が1870年代後半から80年代初頭にかけて牧牛業のため訪れ、1885年のワイオミング家畜業者大会の初期の記録によると牛の数は200万頭と報告された。<sup>43</sup>

### c. 西部の放牧業の違いと利点

こうして北部での牧牛業は始まり、初めから鉄道が利用できるのでロングドライブのような大きな困難も無く順調に発展した。1870年代には多くの鉄道が敷設され、この工事に従事する人々に牛肉を供給し、大きな利益を上げた。そして、1871年までに約10万頭の牛がコロラドからワイオミングに送られた。<sup>44</sup> このような北部の放牛業への介入で、牛の市場に変動が起こった。

## 3.5 羊飼いの台頭と対立

### a. 羊飼いの始まり

それまでもアメリカで牧羊は行われていたが、1859年にアメリカ種の羊が南、西部地方に移入され、間もなくスペイン種と交配された新種の羊が誕生した。その結果、一頭から4ポンドの羊毛が取れ、しかも柔らかく旨い肉が得られるようになった。<sup>45</sup> また東部の市場で羊毛と羊肉の需要が高まり、羊の飼育が盛んになった。ロングドライブ全盛期に密かに牧羊業界も発展をしていたのである。

### b. 羊飼いの影響

交通網の整備が背中を押す形で牧羊業は広がり、フロンティアを横切る鉄道が至る所で羊毛と肉の輸送設備を持ち、市場への出荷が容易になるにつれ牧羊業は生産量を増加していった。<sup>46</sup>

しかし、羊の増加に伴い牧牛業者は、公有地での羊の放牧を禁止しようとした。羊は草を根元まで食べ、鋭いひづめで根を踏みつけ草が枯れ、羊の臭気を牛や馬が嫌うため、業者間の争いが絶えなかった。<sup>47</sup> また馬を操るカウボーイは、徒歩で仕事を行う羊飼いを軽蔑するところがあり、羊飼いは泥棒より卑しい者という偏見を持っていた。<sup>48</sup> この対立は羊の増加につれ、ワイオミングとコ

コロラドだけでも死者20名、負傷者数100名、60万頭の羊が殺された流血騒ぎにまで発展した。<sup>49</sup>

### c. 牧羊業者との争いの結果

激しい抗争は20世紀まで続いたが、最終的には羊飼いの勝利で幕を閉じた。羊は牛が口の届かない草や芽や牛が食べない草を食べ、牛よりも多産で寒い気候にも非常に抵抗力があった。また羊毛や羊肉は牛肉に比べて安定した価格を保つため牛との住み分けができ、多くの放牧業者は牛肉の価格が下落した時のつなぎのため羊を育てたのである。<sup>50</sup> 羊は牛に比べて1人で見張りが出来、暴走もなかったため、飼育の人件費も安上がりで楽であった。

そのため牛飼いから羊飼いに転向する者もあり、1900年にはワイオミングやコロラド、それにテキサスにおいてまでも牛よりも羊が多くなり、この年の記録では西部における牛と羊の数の比率は1対8になっている。<sup>51</sup>

### d. 気候の変動による影響

1886年から88年にわたる北部平原の厳しい冬は、多くの家畜に大きな被害をもたらした。特に86年の冬は西部の歴史の中でも最悪の気候で、大雪が舞い、あまりに雪が深かったため牛は草を食べることができず多くの牛が死んだ。気温は零下30度以下に下がり、春になると西部の谷間にはどこでも牛死骸が積み重なっていた。ワイオミングだけで1886年に約900万頭いた牛は95年には300万頭に減少した。<sup>52</sup> しかし、牛に比べて羊の経済的損失は少なく、厳しい冬に耐えられたこともあり、牛との競争に羊が勝利したのであった。

## 三章まとめ

この章ではこれほどまでに発展した放牛産業の衰退を述べた。大陸横断鉄道の開通によりロングドライブの必要性が無くなり、発展する鉄道や開拓を進める農民との間の衝突を防ぐため有刺鉄線が発明された。また追いうちをかけるようにホームステッド法が施行され、開拓に伴う公有地の減少が進み、1890年のフロンティアの消滅に象徴されるように、牛を育てるための広い土地は失われてしまった。そして、消費地である北部での放牧業の市場参入や、牧羊業者の台頭により牛の代わりとなる産業の発展が起こった。放牛業界におけるカウボーイの平均年齢は24歳で、労働人口は3万人から4万人いたにも関わらず衰退したほど、上記の影響力は凄まじいものだったと考えられる。

## おわりに

カウボーイがアメリカに与えた影響の一つに、第一章で述べたカリフォルニアが州に昇格するために貢献したことが上げられる。金の発見により一時的な鉱山町になるだけかと思われたカリフォルニアにはそれ以上の人が訪れ、結果的に10万人を越える人々が集まった。それにより必然的に起こった食糧不足や物価の高騰は、当時テキサスに無数にいた牛を売り裁くには最適な夕

イミグであった。放牛業者は牛を売り裁くためカリフォルニアに向かい、その結果食糧問題は解決し、金の採掘が促された。ゴールドラッシュで得た金は公共事業にも注ぎ込まれ、大陸横断鉄道建設の気運が高まるなど西部の開拓は促され、アメリカ経済の基盤を作り上げたのである。

そして、カリフォルニアのゴールドラッシュ以降、西部の開拓は進み、州への昇格が各地で起こった。これは同時に男子の普通選挙権が拡大し、それだけアメリカの民主主義が前進したことを意味した。またそれに伴い各国の移民が訪れ、多くが自由州に流入した。しかし、一方で南部の奴隷州への流入は少なく、自由州の商業的、政治的優位化は進み、南北の対立を招いたのであった。そしてこの対立は、1861年の南北戦争を勃発させるまでに至ったのである。

二つ目の影響として、第二章で述べたカウボーイの黄金期と呼ばれた南北戦争終結後の65年から80年の間に、戦争により消費してしまった北部の牛肉不足と、工業的発展における労働人口の増加による食糧不足を、鉄道を利用したロングドライブによる牛の輸送を行い解決したことが挙げられる。これによりアメリカは、西部と北部という二つの地域が需要と供給の一致により繋がり、相互の市場としての関係をより一層強力なものとしたのである。そして、1869年5月10日に大陸横断鉄道が完成し、アメリカを一つの国として繋げることに成功したと考えられる。

そして、このカリフォルニアのゴールドラッシュと黄金期の二つの時代に、カウボーイが存在せず食糧不足の問題が浮上したままでは、西部だけでなくアメリカ全体の発展はなかったものと考えられる。西部のフロンティアスピリットにあるように、西部に移住する以前の地位などは関係なく、作物の作り方すら分からない新たな土地で、何度失敗しても成功するまで挑戦する開拓の心が無ければ、カウボーイはロングドライブを思いつかなかったのではないかと思う。そして、四年間の大学生活を終えこれから社会人となる私達は、このようなカウボーイが持っていた開拓という名の挑戦する心構えに見習うものがあると思う。

---

## 註

- 1 中屋健一『明解アメリカ史』、三省堂、1987年、p.94。
- 2 同上、p.101。
- 3 鶴屋寿『アメリカ西部開拓博物史』、PMC出版、1987年、p.100。
- 4 同上。
- 5 鶴屋寿『カウボーイの米国史』、朝日選書、1989年、p.41。
- 6 同上、p.43。
- 7 同上、p.42。
- 8 同上、p.44。
- 9 同上、p.45。
- 10 同上、P.46。
- 11 鶴屋寿『アメリカ西部開拓博物史』、p.105。
- 12 中屋健一、前掲書、p.95。
- 13 有賀貞『アメリカ史概論』、東京大学出版会、1987年、p.151。
- 14 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.68。
- 15 中屋健一、前掲書、p.163。
- 16 鶴屋寿『アメリカ西部開拓博物史』、p.122。

- 
- 17 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.76。
  - 18 同上、p.70。
  - 19 有賀貞、大下尚一『概説アメリカ史』、有斐閣選書、1979年、p89。
  - 20 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.79。
  - 21 同上、p.82。
  - 22 同上、p.96。
  - 23 中屋健一、前掲書、p.168。
  - 24 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.111。
  - 25 同上、p.113。
  - 26 同上、p.116。
  - 27 中屋健一、前掲書、p.168。
  - 28 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.118。
  - 29 猿谷要『西部開拓史』、岩波新書、1982年、p.171。
  - 30 高平鳴海『図解フロンティア』、新紀元社、2014年、p.42。
  - 31 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.121。
  - 32 同上、p.135。
  - 33 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.175。
  - 34 同上、p.176。
  - 35 高平鳴海、前掲書、p.70。
  - 36 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.196。
  - 37 猿谷要、前掲書、p.174。
  - 38 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.202。
  - 39 同上、p.189。
  - 40 猿谷要、前掲書、p.175。
  - 41 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.176。
  - 42 同上、p.184。
  - 43 同上。
  - 44 中屋健一、前掲書、P.170。
  - 45 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.220。
  - 46 同上、p.221。
  - 47 同上、p.222。
  - 48 同上。
  - 49 中屋健一、前掲書、p.173。
  - 50 鶴谷寿『カウボーイの米国史』、p.226。
  - 51 中屋健一、前掲書、p.173。
  - 52 同上、p.172。

#### 参考文献

- ・ 鶴屋寿『カウボーイの米国史』、朝日選書、1989年。
- ・ 鶴屋寿『アメリカ西部開拓博物史』、PMC出版、1987年。
- ・ 猿谷要『西部開拓史』、岩波新書、1982年。
- ・ 高平鳴海『図解フロンティア』、新紀元社、2014年。
- ・ 中屋健一『明解アメリカ史』、三省堂、1987年。
- ・ 有賀貞『アメリカ史概論』、東京大学出版会、1987年。
- ・ 有賀貞、大下尚一『概説アメリカ史』、有斐閣選書、1979年。
- ・ 山岸義夫『南北戦争』、近藤出版社、1972年。

(卒業論文指導教員 山崎 由紀)

# The Role and Contribution of Cowboys in American Old West

The American Old West refers to both wide geographical area expanded during the Frontier Movement and the time period when this expansion to the West was pursued. It started after the Louisiana Purchase of 1803, and developed by a series of laws to support the people to move westward in the 1860s. During this time, cowboys contributed to the development of the nation by its so-called “long drive” through which they transported cattle over long distance.

There are two periods when cowboys played an active role. The first is during the California Gold Rush, and the second is during the Gilded Age which was after the American Civil War. During the Gold Rush in California (1848-55), those cowboys supplied food during this time of dramatic increase of needs in the West. The second wave came soon after the Civil War (1861-65). It was during the so-called Gilded Age when rapidly developing industries in the North East and Midwest required tremendous numbers of laborers. Thus, the provisions by those cowboys supported the entire nation from the middle to the end of the nineteenth century.

This thesis describes how the cowboys played their roles in the U.S. history and contributed to the development of the nation and society during these two periods while interpreting the necessity of the cowboy industry in the American Old West.